



静岡理工科大が新設する建築学科(仮称)の新校舎の完成予想図

静岡理工科大理工学部

建築学科 17年新設

袋井市豊沢の静岡理工科大は11日、県内の大学では初めての建築学科(仮称)を2017年4月、理工学部

に新設する計画を発表した。建築分野を志す若者を地元で育て、防災・減災対策などで需要が高まる建設業界に人

材を送り出す狙い。文部科学省の認可が下り次第、16年6月にも学生の募集を開始する。

入学定員は50人で、教員は9人体制でスタートする。光環境や建築デザイン、建物の防災技術などを主な研究のテーマに据え、実験や演習に重点を置く。卒業とともに2級建築

士や建築施工管理技士の受験資格を取得でき、就職先は設計事務所やハウスメーカーなどを想定する。

学内に新校舎も建設する。構想は鉄骨4階建てで床面積は約3千平方メートル。1階には地域連携の拠点としてイベントにも活用できるスペースを整える。建築構造学が専門の

野口博学長は「建築を学ぶため他県の大学に行く状況を打破したいと考えていた。地方創生にも掲げられている防災・減災に貢献する人材を育てたい」と語った。

建築学科の新設と同時に総合情報学部も再編する。学部を「情報学部」、人間情報デザイン学科を「情報デザイン学科」にそれぞれ改称し、講義科目を新設・高度化する。